

実るほど・・・

感謝の気持ちを表現する～他者意識向上のために

2018.04.18

No.05

校長 渡邊 幸二

今日の全校朝会で、交通指導員さんにお礼を言う子どもたちの話をしました。すべての子どもたちがそういう気持ちで、そんな感謝の表現ができるわけではないでしょう。しかし、そんな子どもたちが駅東以外にも何人もいることは、今後の広がりを生むきっかけになります。とても楽しみです。

頭を垂れる稲穂かな

校内でも、「おはようございます」や「さようなら」を言ってくれる子どもたちが多くいます。そのときにちょこんと頭を下げてくれる子どももいます。また、廊下ですれ違ったときに会釈をしてくれる子どもも、数は少ないのですがいます。

私は、このように誰かに対して「頭を下げられる」ということがとても重要だと考えています。その相手が別に校長先生や担任の先生だからではなく、あるいは偉い方や地位の高い方だからというのではなく、普段からあいさつのときやお客様などとすれ違うときに頭を下げられることは、**他者意識向上のためにも、思いやりの心や感謝の気持ちの醸成のためにも重要**だと考えています。



自己肯定感が高まり、自信がどんどん沸いてくるような、そんな人に育ててほしいと思いますが、同時にちゃんと頭を下げられる謙虚さも持ち合わせてほしいと思うのです。“私はこう思う”“僕は違うと思う”と言い合えるような、自分の思いをしっかりと伝えられることと同時に、相手の声に耳を傾けてちゃんと対話できるということと似ている、つながるように思います。

交通指導員さんや声かけ会のみなさんがご苦勞されていることは、子どもなりに理解できると思います。そういう思いや理解していることをきちんと表現できること、つまり「ありがとうございます」が言えること、頭を下げること、ねぎらいの言葉がけができること……そういう「行動」としてまで表現できてはじめて、「わかる・できる」だと思います。道徳の授業だけでなく、普段の生活でも授業でも、「思う・わかる・判断する・選択する」だけで留まらずに、「行動する・実践する」まで表現できるようになればいいですね。

まず、この「おじぎをする」「会釈をする」から始めてみませんか。